

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立義務教育学校玉湯学園前期課程）

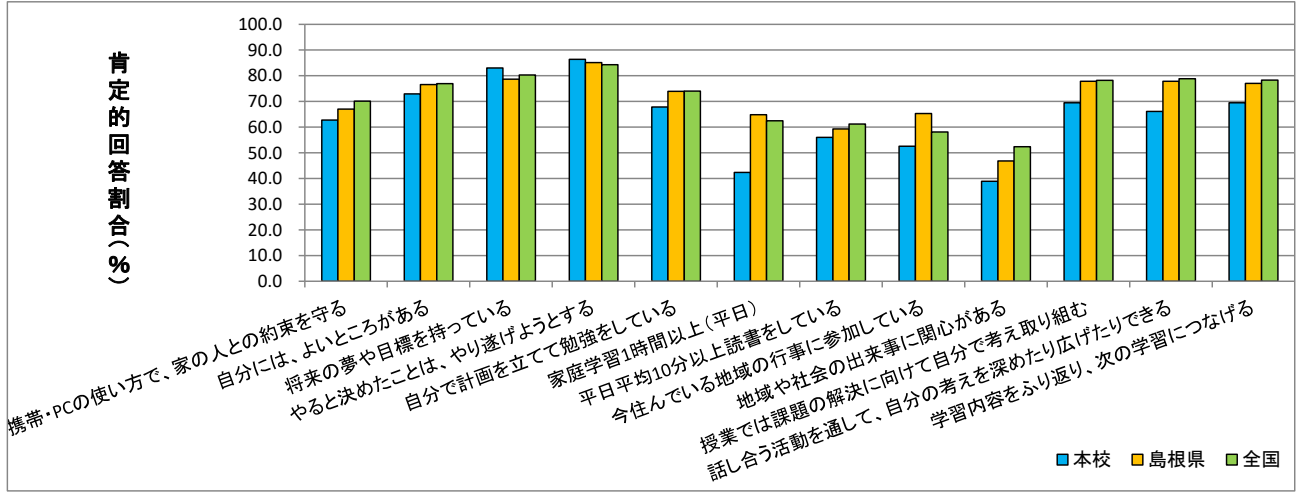
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	●資料を読み、条件に合わせてまとめて書く設問で、条件を満たさなかったり、資料に合わなかったりするまとめ方が多く見られる。 ●問題を解く速さに課題が見られ、後半の問題に取り組めていない児童の割合が高い。	・文章をまとめることに時間がかかるので、自分の考えを文章に書いて表す学習場面を増やし、文章に表現することに慣れるようにする。(国語科以外でも) ・文章を自由に書くだけでなく、条件や目的に合わせた文章を書く活動を行う。
算数	○棒グラフの基本的な読み取りはできていた。 ●基礎的な学習事項の理解に課題がある。 ●終盤の問題や、文章で説明する問題での無回答率が高く、問題を解く速さに課題があることが考えられる。	・立式して答えを出すだけでなく、立式の根拠を図や言葉を使って説明しあうような学習場面を設定する。また、目的に応じた図を使い分けられるようにする。 ・必要に応じて単元の導入時に、既習事項を確認したり、反復的に既習事項の内容を活用したりすることで学習内容が定着するようにする。 ・朝活動時間、放課後等に補充的な学習の時間を設ける。

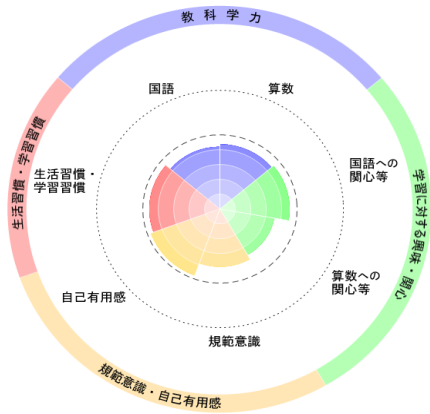
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
●メディアの接触時間が多い児童が多く、極端に多い児童も見られる。 ●家庭での学習時間が短い。	・学年に応じたメディア学習を計画的に実施する。 ・家庭学習について、学習意欲の高めるような課題の出し方を工夫する。 ・メディアや家庭学習の取組時間など、お便りや個人面談等で情報発信、協力をお願いをする。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学力調査の結果、その分析内容について校内で情報共有し、各学年に応じた表現力の向上や、ペア学習など児童それぞれが考えをアウトプットできるような場面を取り入れることで課題意識をもって学習に臨めるような授業改善を図っていく。また、その効果について検証を行う。

【受検者数】 59 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。